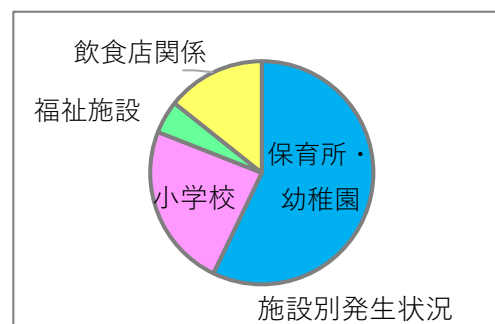
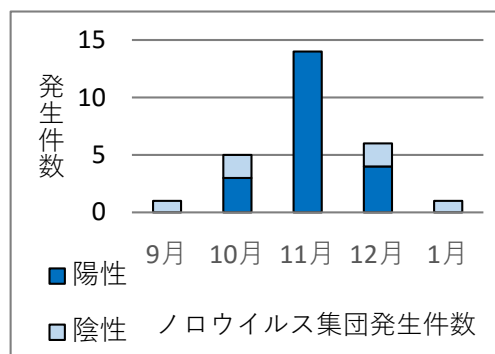


今シーズンのノロウイルス検出状況

昨年11月にセンターだよりで、ノロウイルス GⅡ.2 による集団発生が多数起きていることを報告しました。今回は、その後の解析結果について報告します。

今シーズン(2016年9月～)は、現在までに27例の集団感染、食中毒事例(疑い事例も含む)の検査を実施しました。そのうち21例はノロウイルス GⅡが原因であり、遺伝子型解析の結果、20例が GⅡ.2 とわかりました(残り1例は解析中)。施設別の発生状況では、福祉施設や飲食店関係など成人間からの発生も一部ありましたが、保育所・幼稚園、小学校からの発生が多く、全体の8割を占めていました。国内での GⅡ.2 の検出は、2007/2008～2013/2014 シーズンまで、比較的多く検出されていましたが、2014/2015 シーズンは、ほとんど検出がありませんでした。そのため、低年齢層は GⅡ.2 に感受性を示す者が多かったと考えられます。



ノロウイルスの遺伝子型解析は、通常300塩基ほどの塩基配列を解析していますが、今シーズン流行した GⅡ.2 については、解析領域を拡大し、およそ3000塩基の塩基配列の解析を行いました。得られた塩基配列について、近年他府県で検出された GⅡ.2 を参照株とし、系統樹解析を実施した結果、これまでとは異なるクラスターを形成しました。また、茨城県や川崎市は、今シーズンの GⅡ.2 は、これまでとは遺伝的性状が異なる変異株である可能性を示唆しており、本県で検出している GⅡ.2 も同様の変異株である可能性が高いと考えられます。

ノロウイルスは、変異すると流行を引き起こし、社会に大きな影響を及ぼします。そのため、今後も迅速なノロウイルスの流行状況把握に努め、情報提供を行いたいと考えています。

